

大豆栽培管理情報 (防除・畦間かん水)

令和5年8月 日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

1. 開花期以降のうね間かん水の実施について

・開花期（7月下旬）から9月上旬頃までの期間に、
3日以上晴天が続いた場合は、土壌の乾き具合に応じ
てうね間かん水を行いましょう。

葉が裏返る前にかん水を！



・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡った
ら水口を止めて速やかに排水しましょう。

・大豆の根粒菌は乾燥に弱いため、土壌が乾燥すると莢先熟
(青立ち) やちりめんじわ粒の発生を助長させます。



莢数が多く成熟期
までに落葉する

莢数が減少し、
落葉しない

かん水十分

かん水不十分

2. 病害虫防除は確実に！

基本防除は、適期に確実に実施しましょう。また、害虫の発生状況に
応じて、随時防除を実施しましょう。



図 左) 柿ハカムシ 右) 仔モンガムシ

	防除時期 (目安)		対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	散布量
基本防除	1回目 (莢が伸びきった頃)	8/6～15頃 (開花後2～4週間頃)	紫斑病、カメムシ類	スミチオン乳剤 プランダム乳剤25	1000倍 4000倍	150リットル
	2回目 (1回目の14日後頃)	8/20～29頃	紫斑病、カメムシ類 マメシクイガ	アミスタートレボン SE液剤	1000倍	150リットル
随時防除	8月上旬まで (大豆1本あたり6個以上の葉巻 が連続して5～10本見られたら)		ウコンノメイガ	ダントツH粉剤DL (収穫7日前まで)	—	4kg/10a
	8月中旬頃 (葉や莢に食害が見られたら)		フタスジヒメハムシ マメシクイガ			
	葉に黄色斑点や成・幼虫が見られたら		カメムシ類 チョウ目幼虫	トレボン粉剤DL (収穫14日前まで)	—	4kg/10a